

2023年度

国際学部

専門ゼミナール選択オリエンテーション資料

目 次

専門ゼミナール選択オリエンテーション要領 ……	3
専門ゼミナール選択指導について ……	4
2023年度専門ゼミナールI一覧表 ……	6
2023年度専門ゼミナールI概要 ……	8

国際学部

専門ゼミナール選択要領

本年度の専門ゼミナール選択オリエンテーションは、次の要領で開催します。

○日 時 : 2022年9月15日(木) 13:00~16:30

○実施方法 : オンライン(リアルタイム)
※オンラインで出席してください

○説明会URL : <https://zoom.us/j/91932316734?pwd=NXNoWk13bGd3aWRzYTVmQnAzdGpIdz09>
ミーティングID: 919 3231 6734
パスコード: 147547

○内 容 :

- ① 各専門ゼミナールの紹介
- ② 専門ゼミナール選択の方針・選択方法・スケジュールの説明

*スケジュール

説明会	ゼミ選択期間	第1志望調査票 締め切り	第2志望調査票 締め切り	第3志望調査票 締め切り
9/15(木)	9/15(木)~ 10/15(土)正午	10/15(土) 12:00(正午)	11/12(土) 12:00(正午)	12/3(土) 12:00(正午)

詳細は次ページをご覧ください。

国際学部 2 年生の皆さんへ 【重要】
—2022 年度専門ゼミナール選択指導について—

2022/9/15

国際学部教務委員会

1. 専門ゼミ選択についての方針は以下のとおりです。

- (1) 専門ゼミナールは国際学部学生の必修科目で、3・4 年次の 2 年間（専門ゼミナール I～IV）にわたり同じ教員のもとで指導を受けることとなります。これは、専門ゼミナールが「国際学部における知の再編と創造の集大成の場」として大変重要だからです。したがって、ゼミ選択にあたってはこれまでの学習への総括とともに、これからの学習研究計画、将来の自分のあり方などを考え、慎重に選択をしてください。
- (2) 専門ゼミにおける学習上の効果を保障するために、**最少定員（10 名）、最大定員（最も多い場合で 19 名）**とします。なお最大定員については、皆さんの志望を尊重する一方で、教育水準の維持を考慮して設定される「ここまでは受け入れることが出来る人数」であり、必ずしも「受け入れなければならない」という意味ではありません。したがって、各ゼミにはそれぞれ異なる最大定員に関する枠が設けられ、各教員の判断で受け入れ人数を調整することとなります。
- (3) **第 1 志望者数が、各教員が設定した定員枠を上回った場合には、各教員が選抜をする場合があります。**第 1 志望への所属がかなわなかった学生の皆さんは、その後あらためて志望ゼミナールを選んでいただくこととなります。その際の受け入れ可能ゼミの条件等については、当該者に別途連絡します。
- (4) 1 名以上の志望者がいる場合にはゼミを開講します。ただし、志望者が 1 名の場合には当該学生の意見を聞き、志望ゼミ所属についてあらためて確認をしたいと考えています。志望者がいなかった専門ゼミナールについては非開講となります。
- (5) 専門ゼミ選択は皆さんの所属学科にかかわらず、原則として自由に選択することができます。ただし、指導に不可欠な特定科目履修がなされていないなど、ゼミの専門性確保が困難となったリ、学生を指導していく上で目標が達成されない恐れがあったりする場合において、担当教員は自身が所属する学科の学生（あるいは別の学科の学生）を優先的に選抜する場合があります。この場合は予め、その旨を「各専門ゼミナール概要資料」に記載していますので、資料をよく読んで精査してください。

2. 専門ゼミ選択のスケジュールは以下のとおりです。

- (1) 専門ゼミナール選択に関する情報を 9 月 15 日（木）より教育支援課ホームページで公開します。公開内容には以下が含まれています。
 - ① 2023 年度国際学部専門ゼミナール選択オリエンテーション資料（本資料）
 - ② 各専門ゼミナールの概要（シラバス等）
 - ③ 各ゼミ提供の付属資料（Google Driveへのリンク）
- (2) 皆さんは約 1 か月のゼミ選択期間に「各専門ゼミナールの概要」をよく読み、各ゼミが提供する付属資料（Google Drive※1）などの閲覧、任意で開かれる説明会への参加、ゼミ見学や研究室訪問などを積極的に行って情報を集め、志望ゼミを選択するように努めてください。**複数のゼミを見て、教員と必ず面談を行ってください。その際、教員から志望調査票にサインをもらってください。志望ゼミの教員のサインがない志望調査票は無効となりますので注意してください。**
- (3) A～F 先生に質問がある場合は各学科長（国際理解学科：山田先生、国際観光学科：菅原先生）、もしくは教務委員長（千葉）までご連絡ください。

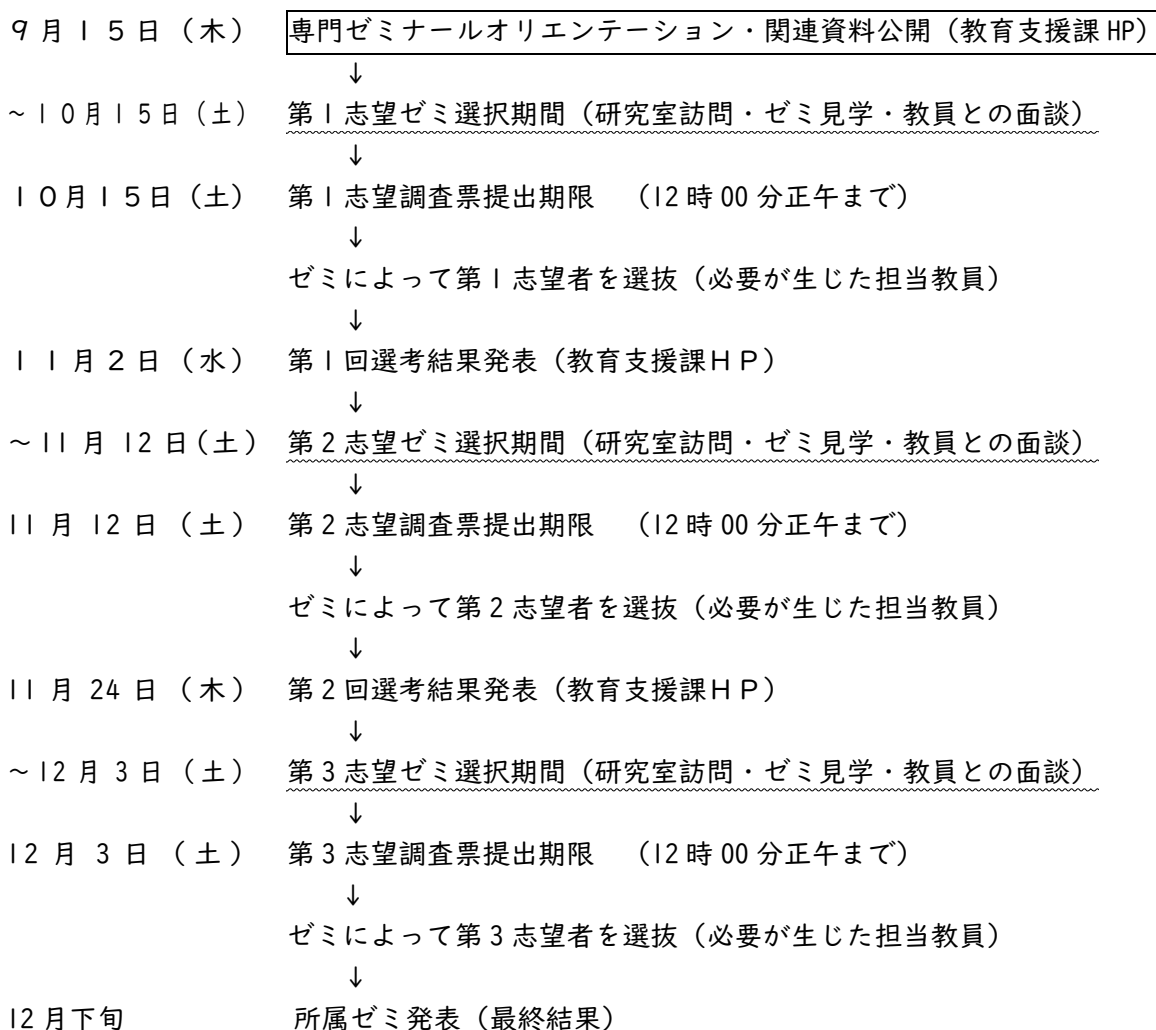
(4) 皆さんは、志望調査票に志望するゼミ教員からサインをもらったうえで、10月15日(土)正午までに調査票を教育支援課へ提出してください。

(5) 第1回選考でゼミが決定しなかった学生は、第2回以降の選考で決定します。

(6) その他、疑問等がある場合は教育支援課、あるいは教務委員長の千葉先生までご相談ください。

※1は教育支援課からのお知らせ本文および教育支援課HPに記載しています。

<参考> 専門ゼミ選択のスケジュール



2023年度 国際学部 専門ゼミナール I 一覧

No.	教員名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目等	受入上限	研究室
1	赤坂 雅裕	理解	「授業論」「部活指導」「食育」「特別支援教育」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関すること	特になし	10名	3417
2	阿野 幸一	理解	英語教師になるための指導力養成 コミュニケーション能力育成のための英語指導法	教職科目全般	10名	3420
3	生田 祐子	理解	English for Global Engagement (国際社会とつながる英語)	Global English (多様な英語世界) 英語コミュニケーション論	10名	3423
4	石川 桂	観光	ホテルサービス、ホテルマネジメント	ホテルやホスピタリティ関連科目	15名	3528
5	榎本 アンドリュー	理解	American Minority Studies	As many English courses as possible	10名	3515
6	海津 ゆりえ	観光	エコツーリズムを通して考える文化と自然の継承のあり方	地域プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ(3・4セメスター)	15名	3527
7	金井 恵理可	理解	在日外国人の人権・地方自治論・子どもの貧困など	法学系の科目1科目以上(ただし担当者は問わない。)	10名	3513
8	北野 マグダ	理解	Culture in Media	English electives that focus on skills in writing and discussion, or as needed by the individual.	10名	3518
9	久保庭 慧	理解	国際法を通じて「世界」を眺める	「国際理解と法・政治」「国際人権保障論」「国際機構論」「国際関係論」など国際法関連科目	10名	3505
10	小島 克巳	観光	交通事業や交通政策に関する研究	観光交通論、エアラインビジネス論、エアラインサービス論	10名	3503
11	塩沢 泰子	理解	演劇的手法を活用した総合コミュニケーション力(特に英語)養成	英語オーラル・コミュニケーション論(新カリでは「英語パフォーマンス」、「英語とメディア」)	12名	3432
12	清水 麻帆	観光	文化と地域創生(専門:地域経済学・文化経済学・地域活性化・まちづくり)	観光政策論・観光資源論	10名	3516
13	菅原 周一	観光	①社会や企業が抱える課題を見つけ、解決に向けた検討、提案を行う(テーマはゼミ生の話し合いで決定。グループワーク) ②企業の将来性や社会貢献度、魅力度を分析、評価する	特になし	15名	3522
14	杉山 富士雄	観光	競争戦略論で読み解く観光業界・企業	経済学、産業組織論、企業の競争戦略の経済学、食と農の経済学、観光の経済学	10名	3416
15	孫 美幸	理解	ホリスティックアプローチを通して、自分の進路を見つめ、平和な未来、多文化共生社会を描く。	異文化理解や多文化共生社会をテーマにした科目群	12名	3521
16	種村 聡子	観光	ホスピタリティ・マネジメント	国際観光とホスピタリティ、観光サービスなど	14名	3504
17	千葉 克裕	理解	効果的に外国語を身につけるにはどうすれば良いのか？ ー第2言語習得理論の理解と学びの実践ー	英語学概論、英語音声学、英語表現、心理学、統計学など	10名	3526

No.	教 員 名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目等	受入 上限	研究室
18	利根川 由奈	観光	文化のマネジメントを学ぶ・体験する・実践する	「交流文化論」、「文化政策論」、「アートマネジメント論」	11名	3529
19	黛 陽 子	観光	* サステイナブルなツーリズムと地域産業づくりへの取り組み * ヘリテージ(地球の遺産)を次世代へ維持する取り組み * 農業を主題としたルーラルツーリズムの学びと実践 * ヘリテージ・インタープリテーションの実践 「知る・調べる→創造する→伝える→つなぐ→解決策提示」	インタープリテーション論(理論・応用)、 観光とソーシャルビジネス、はゼミ生全員必ず受講	12名	3525
20	丸山 鋼二	理解	「東アジアの多文化共生社会を考える」	文化人類学、英語音声学、民族の歴史と世界、平和学、NPO・ボランティアの理論、現代思想、地域研究、外国史B(東洋)、多文化社会と共生など	12名	3523
21	本浜 秀彦	理解	視覚文化論(映像と身体)	「国際理解と文化」、「日本研究A」、「日本研究B」	10名	3514
22	山田 修嗣	理解	ステキな「まちづくり」の研究 ～これからの「望ましい社会」にむけた市民と地域の検討～	特になし	12名	3413
23	渡邊 暁子	理解	「人びとの目線から現代社会の課題を考える」 キーワード: 文化人類学、フィールドワーク、宗教、貧困、格差、社会的排除、移民・難民・国際労働移動、マイノリティ、コミュニティ	「文化人類学」「移民と難民」「民族の歴史と世界」「開発教育論」「NPO・ボランティアの理論」、その他国際学部に関連科目	12名	3517
24	渡邊 三津子	理解	地理的地域調査法の習得と調査(フィールドワーク)に基づく地理学的研究	地理学(あだち)、環境地理学、世界と日本の地理 ※地理学の基礎を習得していること	10名	3512
25	A	理解	歴史学、思想史、西洋思想から見る国際関係	2023年度着任予定	18名	—
26	B	理解	哲学、倫理学、宗教学、国際社会における宗教の役割	2023年度着任予定	18名	—
27	C	理解	政治学、平和学、公共政策と現代社会	2023年度着任予定	18名	—
28	D	観光	観光社会学	2023年度着任予定	18名	—
29	E	観光	企業経営、観光ビジネス	2023年度着任予定	18名	—
30	F	観光	旅行業、経営、マーケティング	2023年度着任予定	18名	—

担当者名	赤坂 雅裕 (あかさか まさひろ)
e-mail アドレス	akasaka@bunkyo.ac.jp
研究室	3417
出講日	月・水・木・金曜日
ゼミの開講時間	木4 (3年生)、木5 (4年生)
担当科目	[春学期] 教育原理、教職概論、総合的な学習、社会科公民科教育法Ⅰ、社会科公民科教育法Ⅲ、4年・3年ゼミ、教育実習(中学) [秋学期] 道徳教育、特別活動論、4年・3年ゼミ、教育実地研究、教職実践演習、(越谷 特別活動)
研究室を訪問できる時間帯	昼休み
ゼミのテーマ	私自身は、道徳教育と特別活動を中心として、教育学全般に関心があります。ゼミとしては、「授業論」「部活指導」「食育」「特別支援教育」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関することでしたら、何でもOKです。
ゼミの内容・メッセージ	「いじめ」「不登校」「キレル子」「モンスターペアレンツ」「学級崩壊」・・・教育現場は、問題が山積しています。そして、それら「教育病理」への有効な方策を見出すことができず、先生方は心身共に疲れ果てています。これではいけません。日本の教育を向上させる方策を我々で見出し、提案しましょう。 子どもが大好きで、教育に関心があるあなた、教師になりたいという夢を抱いているあなた、どうぞ国際学部でただ一つ教育学を専門的に学ぶことができる赤坂ゼミの門を叩いてください。 実践的指導力のある教師を目指して、共に歩いていきましょう。
ゼミの進め方	① 3年春学期は、1年教職学生との交流学习の企画・準備・実践を行います。 ② 3年秋学期から、自分の研究テーマを決め、各自の発表に基づく意見交換を行い、卒論を書き始めます。 ③ 4年次は、このディスカッションをもとに、卒業論文執筆に専念します。 ④ 卒論執筆と同時に、特別支援学級の生徒との交流会、茅ヶ崎市内の小・中学生への学習支援ボランティア、卒論検討合宿、愛の湘南PK(学園祭)、カンボジア・スタディツアー(2020年・2021年は中止)などを行います。 学校現場に行き、直接子どもとふれあって、教師としての実践的指導を養っていきます。
留意事項 (Requirement など)	中学校との交流会などのゼミ活動には、特別な理由がない限り必ず参加していただきます。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	10名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接にて選抜します。
ゼミ受入決定者への指示	後日します。
代表的な卒業論文のテーマ	自己有用感を高める特別活動、「生きている」を実感するための人間教育 外遊びで形成される「共生」能力 など。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	赤坂ゼミは、いつも「笑顔」で溢れています。 赤坂ゼミでは、「教育」という大きなテーマのもとに、一人ひとりが自ら考え、理想の教育の在り方を追求し、楽しく議論しています。 赤坂先生が目指す「人を愛する教育」は、思いやりに包まれ、とても温かいものです。夏には、カンボジアの子どもたちに出会うスタディツアーもあります。 人と人とのふれあいを大切に、実際に学校現場に行き、子どもたちとふれあうことができるゼミなので、「子ども」を学ぶとか、人間教育を学びたいとか、教師としての指導力をつけたいという人には、いいゼミです。 特に将来、教師になりたいという人には、最もよいゼミだといえるでしょう。(4年)

担当者名	阿野 幸一 (あの こういち)
e-mail アドレス	k-ano@bunkyo.ac.jp
研究室	3420
出講日	月曜日・火曜日・水曜日・木曜日
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、木曜 5 限 (4 年生)
担当科目	【春学期】英語科教育法Ⅲ、コミュニケーションのための英文法、教育実習 A、大学院科目 【秋学期】英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ、英語科教育法Ⅳ、英語音声学、コミュニケーションのための英文法、教職実践演習、大学院科目
研究室を訪問できる時間帯	終日大学にいます。研究室のドアに予定を掲示しています。
ゼミのテーマ	英語教師になるための指導力養成。コミュニケーション能力育成のための英語指導法をゼミ生全員で追求します。
ゼミの内容・メッセージ	将来英語教師として教壇に立つことを希望する学生を主な対象としたゼミです。学校教育における小学校、中学校、高等学校での英語の授業について、それぞれの学習段階に応じた授業について考えます。これからの日本の英語教育をリードしていく教師を、阿野ゼミから輩出したいと思っています。すでに約 80 名のゼミ卒業生が教員として活躍しています。主役はあくまでもゼミ生。意欲に満ちた皆さんと一緒に、熱く、素敵なゼミを作っていきます。
ゼミの進め方	英語教育に関するテーマをゼミ生が主体的に研究し、発表し、全員でディスカッションをします。並行して、イベント（小中高生向けの英語ワークショップでの指導、他大学との共同研究発表など）に向けて準備・研究をします。学校など英語教育現場への訪問やゼミ合宿などを随時実施します。4 年生は卒業論文の作成を、教育実習や教員採用試験に向けた勉強と並行して行います
留意事項 (Requirement など)	小中高の授業見学や学習指導、また合同ゼミなどに向けたプロジェクトを行うことが多いので、協力して主体的に取り組ましましょう。
ゼミ履修に望ましい科目	英語教職課程の学生を主な対象とするので、教職科目全般。
定員	学校訪問等の実施をふまえて、10 名まで募集します。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望者全員と面接を行い、志望理由書等も加味して選抜を行います。特に英語教育に対する熱意と意欲を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ決定後にオリエンテーションを行い、ゼミ開始前の学習の指示等を行います。メンバー決定後に、実質的にゼミ活動がスタートします。
代表的な卒業論文のテーマ	「授業分析から学ぶ英語の授業」「学力差に応じた英語指導」「英語の楽しさを伝える授業作り」「小中連携を意識した英語教育」など
所属ゼミ生（先輩）からの一言	阿野ゼミでは英語教育について幅広く学ぶことができます！最新の英語教育や、みなさんが受けてきた英語の授業をもとに考えます。また、実際に学校を訪問し、授業を見学させて頂いたり、生徒と関わったり、授業やゼミ内で学んだことを実際の学校現場と照らし合わせて考えることもできます。コロナ禍で学校訪問が厳しい状況下でも、映像から分析したり、ゼミ内で模擬授業を行ったりなど、やれることを精一杯やっています。さらに、英語教育だけではなく、英語の学習法などについても考え、自分自身の英語力の向上にも繋がっています。ゼミの仲間と共に考え、学ぶことで充実した日々を送ることができます！阿野ゼミで学び、自分自身を成長させてみませんか！（4 年ゼミ長 大場百華） 阿野ゼミナールでは、英語の先生になりたい人や英語教育に興味を持つゼミ生と模擬授業やディスカッションを通して、日々進化する英語教育について学ぶことができます。また、学校訪問などで実際の生徒や教育現場に立っている先生方とお話する機会もあり、かなり貴重な経験になります。英語教育に興味がある人、ぜひ阿野ゼミに入って 2 年間の学生生活を充実したものにしませんか？（3 年ゼミ長 小島朋恵）

担当者名	生田 祐子 (いくた ゆうこ)
e-mail アドレス	ikuta@bunkyo.ac.jp
研究室	3423 (3年生ゼミは3303教室、4年生は研究室も使用予定)
出講日	火曜日・水曜日・金曜日
ゼミの開講時間	金曜日4時限と5時限(4時限は3年生・5時限は4年生) ゼミ訪問予定日: 9月30日・10月7日・10月14日(対面) 見学希望者は、4時限に教室(3303)へ直接いらしてください。
担当科目	Global English (多様な英語世界) 英語コミュニケーション論 社会言語学 通訳入門 英語科教育法 IV 基礎ゼミナール 応用ゼミナール 専門ゼミナール I~IV 多文化理解概論@文学部
研究室を訪問できる時間帯	対面では原則出講日の昼休みと空き時間ですが、オンラインでは柔軟に対応します。メールで希望時間を複数お知らせください。
ゼミのテーマ	English for Global Engagement (国際社会とつながる英語)
ゼミの内容・メッセージ	英語教育・国際協力・一般企業など多様な分野において、国際社会とつながるプロフェッショナルな英語コミュニケーション力を養い、卒業研究の専門的なテーマを英語で解説できることが、このゼミの目標です。そのために英語による模擬国連や国際協働オンライン活動を通して、少し高度で実践的な英語を日常的に使用しつつ、「リングフランカとしての英語によるグローバルな対話力」を鍛えるプチ留学のような英語体験の機会を共有します。 こんな進路に関心のある学生におすすめ: 大学院進学、国連やJICAのような国際機関やグローバル企業、国際理解の視点からの英語教育、日本語教育、メディア、通訳
ゼミの進め方	3年生: 英語を使うことを習慣化し、世界とつながる! 1. 英語模擬国連(JUEMUN)@神戸外国語大学に参加: 2023年はユニセフの会議、「子供と若者の権利」がテーマ。(春学期) → 英語で資料を読み、語彙を増やし思考力を鍛えます。 2. 他大学(フィリピンとインドネシアの大学と国内留学生を含む)との合同学生会議を英語で実施(秋学期) → 春学期に鍛えた英語力をさらに強化します。 4年生: 卒業研究と英語を使う進路の開拓。 国際社会と言語、英語教育、国際理解教育、国際協力(観光も含む)分野等、個人のテーマは多岐に渡りますが、研究結果から社会へ提案できるを見つけます。日本語で執筆、発表を英語で行います(留学生は原則全て英語)。国際機関や教育機関でのインターンやボランティア、海外留学や大学院進学も支援します。
留意事項 (Requirement など)	1. New York 国連研修に参加(2月にオンライン開催予定・無料) 2. 3年次に「社会言語学」(春)「通訳入門」(秋)を履修 3. 英検準1級/TOEIC800点以上を目標とし、応募時にCASEC600以上が望ましい。(厳しいと思う学生は事前に相談ください)
ゼミ履修に望ましい科目	Global English (多様な英語世界) 英語コミュニケーション論
定員	学外活動の人数制限があり、10名とします。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	英語による面接およびCASEC・TOEIC・英検等の提出
ゼミ受入決定者への指示	決定後、対面またはオンラインで顔合わせをします。
代表的な卒業論文のテーマ	“A Case Study of Motivation for Language Learning” 『言語学習における動機づけの一研究』“Environmental Factors when English becomes a Lingua Franca” 『英語がリングフランカになるための環境要因』“Towards Multi-cultural Coexistence with Foreign Residents” 『在留外国人との多文化共生を目指して』 → 研究室で閲覧できます。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	模擬国連の3日間と準備期間の3ヶ月は英語力と問題解決能力がとても鍛えられました。困ったときにはすぐ手を差し伸べてくれるゼミ生や模擬国連で出会った他大学の友人等、英語を学ぶ素敵な仲間にもこのゼミの魅力です。 (4年 Rina Y.)

担当者名	石川 桂 (いしかわ かつら)
e-mail アドレス	erikatsu@bunkyo.ac.jp
研究室	3528
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生)
担当科目	ホテルサービス論、ホスピタリティ人材開発、ホテル事業論、ホテルレストラン会計、キャリア形成 A ほか
研究室を訪問できる時間帯	事前にメールでご連絡ください。
ゼミのテーマ	ホテルサービス、ホテルマネジメント
ゼミの内容・メッセージ	ホテル業界はコロナ禍の中厳しい逆風に晒されておりましたが、現在は WITH コロナのフェーズに入り、様々な工夫や発想により新たなビジネスモデルが生まれるなど力強く対応しています。 こうした現状を調査研究するほか、宿泊産業に関する希望研究テーマや多様化する宿泊施設等についてグループワークなどを通じて調査・研究を実施します。こうした活動を通じて宿泊産業に関する知識を深めていきたいと考えております。
ゼミの進め方	<p>【活動実績】</p> <p>① ホテル PL の見方を学習。⇒業況把握に必須の知識を習得。</p> <p>② 「理想のホテルを作ろう」という課題において、グループに分かれて好きな場所に理想のホテルの開設案を作成、発表。その後フィージビリティスタディの考え方などを学習。⇒自由な発想でホテル開設を検討することによりホテルの仕組みや適正設備、収支の考え方等を学習するとともに採算意識を養う。</p> <p>③ 「ホテルニュー・オータニ東京」見学会の事前調査を兼ね、「ニューオータニお盆時期営業企画書」をグループワークで作成しプレゼン実施。⇒ホテル施設やホテル営業企画を学習する。</p> <p>④ 同種のホテルを 4 ホテルあげ、グループに分かれて調査のうえ、その特徴をあぶり出し「四社比較」をプレゼン。⇒ホテルの違いを学習する。</p> <p>⑤ ホテル、ブライダル業界との交流。 実際に働いている方から生の話を聞き、実際の施設を見て理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホテルニュー・オータニ東京見学会、昼食会、人事部の講演。 ・パレスホテル東京見学会、人事部の講演。 ・オリエンタルランド・ミリアルリゾートホテルズ (ディズニー) の副社長、人事部の講演。 ・ホテルオークラ人事部の講演。 ・ホテルメトロポリタンエドモントの総支配人の講演。 ・リッチモンドホテル人事部の講演。 ・ニューオータニイン横浜見学会。 ・ノバレーゼ (ブライダル) 横浜会場見学会、従業員との交流。人事部の講演。 ・ゼミ合宿 (大阪・京都) ニューオータニ大阪の見学会と従業員との交流。 <p>【4 年次】 春学期では卒業論文の作成に向けて、研究計画書の作成や中間報告を行います。秋学期では卒業論文の作成指導を行います。</p>
留意事項 (Requirement など)	コロナ状況が許せば、ゼミ合宿を実施したいと考えております。また、ホテル見学にも行きますので一定の費用がかかることをご承知おきください。
ゼミ履修に望ましい科目	ホテルやホスピタリティ関連科目の履修。
定員	15～18 名程度
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接を実施します。ゼミで学びたい内容やゼミへの貢献の可能性を重視します。ホテル就職志望者が望ましい。
ゼミ受入決定者への指示	別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	2021 年度卒業生の卒論テーマは以下の通り。 「これからの観光・ホテルのあり方～アフター・ウィズコロナを見据えて」「日本におけるブティックホテルの需要とこれから」「グランピングの現状と今後の成長可能性」「コンセプトホテルのあり方」「ホテルサービスと AI の付き合い方について」など

担当者名	Dr. Andrew Enomoto (榎本 アンドリュー)
e-mail アドレス	aenomoto@bunkyo.ac.jp
研究室	3515
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4限 ((3年生) 5限 (4年生)
担当科目	EIC 101, 102, 103, 104 ESP A 英語ディベート入門 基礎ゼミナール 専門ゼミナール I,II,III,IV
研究室を訪問できる時間帯	昼休み
ゼミのテーマ	American Minority Studies
ゼミの内容・メッセージ	American Minority Studies provides a multidisciplinary analysis of the subordinate/dominant statuses of individuals and groups by recognizing the impact of race/ethnicity, gender, and socioeconomic class of individuals and groups in relationship to American society. The course is designed to foster critical analysis of the issues of difference in our society and to prepare students to understand and interact with people from diverse backgrounds and cultural perspectives throughout their lives. Art, literature, historical analysis, economic analysis, and/or music will be utilized to understand the cultural differences.
ゼミの進め方	Students go through several units throughout the course of each semester. Each unit covers a different minority group in the US. At the end of each unit students create small presentations and participate in discussions. The contents of each course will utilize several mediums such as textbook readings, news articles, YouTube videos, Netflix documentaries and original content. Students will also simultaneously be doing research and writing their final paper.
留意事項 (Requirement など)	Students who join this seminar should have a strong desire to learn English as all the materials will be in English. Students should also be willing and ready to write and present and discuss in English.
ゼミ履修に望ましい科目	As many English courses as possible
定員	10名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接と英語の授業の成績
ゼミ受入決定者への指示	後日に Google Classroom のサインアップリンクを送ります。
代表的な卒業論文のテーマ	Any subject concerning minorities in the US or Japan.
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	アメリカについて知りたかったらアンドリュー先生のところへ！！アメリカ社会におけるマイノリティについて、現状、過去色々学べます。他の授業では得られない知識や見方もたくさん学べます。英語もわかりやすいので、ちょっと英語に自信がないな・・・と迷っている方でも大丈夫だと思います！！ 私たちのゼミでは毎週楽しく、そして自由な雰囲気の中で学ぶことができます。また、今は少人数なので先生とたくさん会話したり意見交換することができるのも魅力です。とても学び甲斐があるゼミなので興味があれば是非検討してみてください！

担当者名	海津 ゆりえ (かいづ ゆりえ)
e-mail アドレス	kaizu@bunkyo.ac.jp
研究室	3527
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	3年生：木4、4年生：木5
担当科目 (導入ゼミ除く 2022 年度開講科目)	国際学入門、地域プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ、エコツーリズム論、地域のサステナブル・デザイン論、専門ゼミナールⅠ～Ⅳ、【大学院】サステナブル・ツーリズム特論、地域計画特論
研究室を訪問できる時間帯	原則として出講日の昼休み (事前にご連絡ください)
ゼミのテーマ	エコツーリズムを通して考える文化と自然の継承のあり方
ゼミの内容・メッセージ	エコツーリズムはこれからの観光のあり方の模索から 20 世紀後半に生まれた概念です。地域の宝を知り、磨き、旅人に伝え、皆で守る循環の仕組みをつくるのがエコツーリズムの理念です。ゼミでは宝探しの体験を通して、学生が地域プランナーの卵になることを目指しています。足立区・草加市や国立公園、世界遺産地域、島など様々な現場との交流を通して実践的に学びます。地域づくりや環境保護、自然体験活動、フィールドワークに関心のある学生に適したゼミです。
ゼミの進め方	3 年次 (専門ゼミⅠ・Ⅱ) 【通常ゼミ】「宝探し」、「地元学」、「聞き書き」 文献研究を通じて地域調査 (宝探し) の理論と技法を学び、足立区・草加市をフィールドとした「地元学」を実施します。地元学では、春学期に基礎調査とアウトプットの企画、秋学期に企画に基づく制作・実践を行い、年度末に地域への還元 (発表会) を行います。 【プロジェクト】通常ゼミと並行して、いくつかのプロジェクトが動いており、全員参加と有志参加とがあります。 4 年次 (専門ゼミⅢ・Ⅳ) 主に卒業研究と卒論執筆を行います。プロジェクト参加も可能。
留意事項 (Requirement など)	春休み中にプレゼミ課題を出題します。 ゼミ合宿やフィールドワーク費用がかかります。
ゼミ履修に望ましい科目	地域プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ (3・4 セメスター)
定員	15 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接を行います。必要に応じてレポートを提出していただくことがあります。
ゼミ受入決定者への指示	全員決定の後、ガイダンスを行います。
代表的な卒業論文のテーマ	自分の問題意識とテーマに適した“研究フィールド (地域)”を決めることが海津ゼミの卒論ルールです。地域活性化、伝統文化や災害の継承、自転車問題、オーバーツーリズム問題などテーマは多彩です。お気軽に研究室に見に来てください。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	海津ゼミはエコツーリズムや地域活性化について研究していくゼミです。フィールドワークがとても盛んでアクティブなゼミですので、そういったことに興味がある方にはとてもおすすめ of ゼミとなっています！／アクティブに活動できて最高に充実感があるゼミ！／このゼミはかなりアクティブなゼミです。積極的な参加ができる人にはもってこいのゼミで、おすすめです！

担当者名	金井 恵里可 (かない えりか)
e-mail アドレス	kanai@bunkyo.ac.jp
研究室	3513
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4,5 時限
担当科目	法律学(第1セメスター)、日本国憲法(第2セメスター)、憲法学(第3セメスター)、法と行政Ⅰ(第4セメスター)、法と行政Ⅱ(第5セメスター)、国際化する社会の中の法(第6セメスター)
研究室を訪問できる時間帯	火曜昼休み・5限、水曜2限～昼休み、金曜昼休み～3限
ゼミのテーマ	在日外国人の人権・地方自治論・子どもの貧困など
ゼミの内容・メッセージ	憲法学・行政法学の基礎知識を身につけるとともに、関連する社会問題について調べ、ディスカッションします。 特に昨今はコロナ禍の中で、在日外国人の人権が脅かされ、国と地方の役割分担が課題となり、子どもの貧困も深刻化しています。またワクチン接種の提供と義務づけが推進されています。これらはすべて憲法と行政法に関連する問題です。「今ここで起こっていること」を解くヒントを一緒に探してみましょう。
ゼミの進め方	ゼミは三つのパートから構成されます。第一のパートは、ゼミ教員の担当科目を履修し、授業で取り扱う重要判例の解説を担当することによって、憲法と行政法の基礎知識を身につけることです。第二のパートは、この基礎知識をもとに個々人の関心のある領域を深掘りし、卒論に結びつけることです。第三のパートは、政策現場・事件の現場を知ることです。一昨年までは自治体で実地研修を行ってきましたがコロナ禍のため中断し、今年度はアイヌの共生政策を学ぶ研修旅行を実施したほか、外国人事件を手掛ける法律事務所を訪問する予定です。
留意事項 (Requirement など)	・3年生の夏休みから秋学期にかけて、インターンシップ・学外研修に参加してください。 ・公務員志望者・法学系資格試験の受験生には、個々人の進度に合わせて、通信講座の受講・参考書の購読等を薦めることがあります。
ゼミ履修に望ましい科目	法学系の科目1科目以上(ただし担当者は問わない。)
定員	10名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	1月中に顔合わせを行うので、出席して下さい。
代表的な卒業論文のテーマ	「在留外国人の社会的差別」「ヘイトスピーチと表現の自由」「フィリピン残留日本人孤児」「難民認定制度の問題点」「中国の人権」／「子どもの貧困」「児童虐待の現状と対策」「待機児童対策の効果と課題」「学校に行かない権利」「学校事故の過失責任」／「AIを用いた防犯と犯罪捜査」「自動運転の法問題」「受刑者の処遇と社会復帰の権利」「地域コミュニティの防災」「自治体における産・公・民の三者協働」／「日本の学生運動」「社会運動とテロ活動」「性的マイノリティの人権」「女性労働者と法」／「安楽死の可罰的違法性」「SNSにおける表現の自由」「保険年金制度と健康づくり政策」「損害保険の歴史と役割」「GAFAM時代の消費者プライバシー」「IR誘致による地域活性化策の功罪」／(今年度)「外国籍の子どもたちへの行政的アプローチ」「婚外子差別から見る戸籍・国籍の意義」「ガールスカウト活動による女性のエンパワメント」「大相撲の『国技』性と国際性」ほか
所属ゼミ生(先輩)からの一言	行政法や憲法の論点を深く学ぶために、教科書や判例をまとめ、ゼミで発表・ディスカッションをします。それらを通して、公務員試験や行政書士などの資格試験をめざす学生に必要な基礎的な知識から専門的な知識までを身につけることができます。今年の3年生のテーマは「外国人の人権と多文化共生社会」「日本におけるジェンダー問題」「日本での同性婚の可能性」「世界的な人種差別への認識変化」「アフリカからの難民の庇護」です。

担当者名	北野 マグダ (きたの まぐだ)
e-mail アドレス	magda@bunkyo.ac.jp
研究室	3518
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金4 (3年生)、金5 (4年生)
担当科目	EIC101、英語表現 A、Academic Writing、翻訳入門、EIC201
研究室を訪問できる時間帯	火4、水2
ゼミのテーマ	Culture in Media
ゼミの内容・メッセージ	In this seminar, we will not study English. Rather, we will use English to learn and exchange our opinions. Presentations, discussions, written work, and final theses will be in English. (The degree to which English is used during seminar meetings will be determined by the class and necessity.) The topic is "Culture in Media," and the class will focus on cultural studies with an international focus through media such as movies, television, journalism, advertising, education, and the Internet. Students will choose one area of interest to study in depth.
ゼミの進め方	Every other week, a new topic will be presented, followed by discussion. Then students will research more on the topic, and present their findings for further class discussion the next week. Students will write semester reports for the first two semesters. During the final year, students will work on a year-long thesis.
留意事項 (Requirement など)	You must write your final thesis (20 pages) in English. At least 450 in CASEC is strongly recommended.
ゼミ履修に望ましい科目	English electives that focus on skills in writing and discussion, or as needed by the individual.
定員	10
選抜を行う必要性が生じたときの 方法	Interview (in English)
ゼミ受入決定者への指示	Work on your English skills, such as by reading English books and Internet sites for pleasure.
代表的な卒業論文のテーマ	Unnatural Family Dinner Scenes in Japanese Dramas, Product Placement of Porsche Cars in Movies, Crime in America and American Crime Dramas, Fantasy School Life in Japan and America, Comparison of Foreign and Domestic Tourist Guide Books of Tokyo

担当者名	久保庭 慧 (くぼにわ さとし)
e-mail アドレス	kuboniwa@bunkyo.ac.jp
研究室	3505
出講日	月曜、水曜、木曜
ゼミの開講時間	木曜 4 限
担当科目	国際関係論、国際機構論、国際理解と法・政治 (法学分野)、国際人権保障論、応用ゼミナール、新入生ゼミナール、基礎ゼミナールなど
研究室を訪問できる時間帯	出講日の空き時間 (月曜：昼休み、5 限、水曜：2 限、昼休み、週によっては 3 限以降も可、木曜：昼休み、3 限、5 限) であれば基本的にいつでも可。ただし確実を期すのであれば事前にメールでアポイントをとって頂けると助かります。
ゼミのテーマ	国際法を通じて「世界」を眺める
ゼミの内容・メッセージ	<p>このゼミでは、担当教員の専門である国際法を分析の「レンズ」として用いて世の中で生じている現象を眺め、分析し、ゆくゆくはそれを最終的な成果物 (卒業論文) として形にするという目標を達成するために必要な能力を一から身につけるお手伝いをしたいと思います。派手な活動はありませんが、久保庭や他のゼミ仲間、先輩たちとの対話や議論の中でじっくりと思考を深めていく、そういう大学ならではの学問的な体験を重視したゼミにしたいと思っています。例えば次のような方にお勧めです。</p> <p>①何らかの久保庭の授業を受けて、全てではなくとも、何かしら特定の話題やテーマについて面白いなと思ったり、自分の興味関心のアンテナに引っかかったりした方。</p> <p>②法学や国際関係に関心のある方はもちろんですが、法学に関心はないけど社会的な問題 (日本のことでも、世界のことでも) を分析するための「視点」を身につけたい方、歓迎です。国際法は何でも分析の対象にできます。</p> <p>③久保庭の専門は国際法ですが、中でも文化の問題に関心があります。世界遺産などの文化遺産保護に関心のある方、歓迎です。</p>
ゼミの進め方	<p>春学期は最初に各自の問題関心を共有し、その上で少しかホネのある文献を全員で読み込んで国際法についての理解を深めましょう。今年度の春学期は、国際法に関わる映画・ドラマを全員で鑑賞し、批評する時間も設けました。状況次第ですが、夏休みには合宿も予定しています (ゼミ生の関心にもよりますが、国内の世界遺産の見学などに行っても良いかと思っています)。秋学期は、事例の研究をします。国際法が実際に「生きた形で」利用されている場面をたくさん発見し、分析できるようになりましょう。</p> <p>また、全体として、仲間と「議論」や「対話」をしながら考えを深めていく、というプロセスを大事にしたいと思っています。年間を通して、現在関心を持っている話題 (時事問題から趣味に関する事など何でも可) を各々持ち寄って「議論」する時間をゼミ冒頭に必ず設けています。</p>
留意事項 (Requirement など)	まだ発足したばかりのゼミです (今年度 1 年目)。皆さん自身がやってみたいことをできるだけ実現していきたいと思っています。一緒に試行錯誤しながらゼミを作っていきましょう。
ゼミ履修に望ましい科目	ゼミ履修と並行してで構いませんので、「国際理解と法・政治」「国際人権保障論」「国際機構論」「国際関係論」など、国際法関連科目の履修を勧めます。
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	志望理由書の提出
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ決定後に顔合わせの会合を開きましょう。詳細は追ってお知らせします。
代表的な卒業論文のテーマ	まだ前例はありませんが、基本的に国際法に関わる問題であればどのようなテーマでも可です。現在 3 年生の先輩たち (一期生) は、「歴史認識問題」「日韓関係の法的分析」「国際法の歴史」「安全保障」「人権とブラック校則」などに関心をもって取り組んでいます。他にも例えば次のようなテーマがあり得ます (一例です)。国際人権保障 (子供の人権、外国人の人権、差別、少数者保護…)、環境保護 (南北問題、SDGs、地球温暖化…)、文化保護 (世界遺産保護、少数民族の文化、開発と文化…)

担当者名	小島 克巳 (こじま かつみ)
e-mail アドレス	kkojima@bunkyo.ac.jp
研究室	3503
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	3年生：木曜 4 限、4年生：木曜 5 限
担当科目	エアラインビジネス論、エアラインサービス論、観光交通論、テーマパーク事業論など
研究室を訪問できる時間帯	出講日 (月・水・木) の昼休みを中心に訪問時間を設ける予定です。日程等の詳細は別途お知らせします。
ゼミのテーマ	交通事業や交通政策に関する研究
ゼミの内容・メッセージ	航空・鉄道・高速バス・クルーズ船等の「交通事業」、空港・道路・港湾等の「交通インフラ」、国内外の「交通政策と観光政策」を主な研究対象とします。個々の交通事業だけでなく、新型コロナ、観光振興、環境対策、地方交通問題など、交通分野と関連する幅広いテーマについても取り上げます。
ゼミの進め方	<p>3年春：交通事業や交通政策に関するテキストや文献を輪読し、交通に関する基礎知識を習得します。成田空港やゼミ旅行訪問先の事前学習を行います。</p> <p>3年秋：春学期の学習やゼミ旅行を踏まえ、グループワークを中心とした調査研究を行います。また、学期末までに各自の卒業論文のテーマを決定します。</p> <p>4年春：卒業論文の作成に向けて研究計画の作成や文献収集などを行います。ゼミ内で数回の中間報告会を実施します。</p> <p>4年秋：卒業論文の作成を進めます。ゼミ内で数回の中間報告会と最終報告会を実施します。</p> <p>学外活動 (定例のもの)</p> <p>3年春：成田空港と周辺施設の見学 (空と大地の歴史館など)</p> <p>3年夏休み：ゼミ旅行 (行先未定、海外の場合もあり)</p> <p>3年秋：JAL 安全啓発センターと関連施設の見学 (羽田地区)</p>
留意事項 (Requirement など)	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文のテーマには何かしら交通と関係するテーマを選択してもらいますので、入ゼミ希望者には交通への関心や問題意識があることが最低限求められます。 輪読テキスト代や学外活動の交通宿泊費など、ゼミ活動に際して一定の費用が発生します。
ゼミ履修に望ましい科目	観光交通論、エアラインビジネス論、エアラインサービス論
定員	10名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望調査票の内容にもとづいて個人面接を実施します。選考に際しては、「ゼミの志望動機」や「ゼミへの貢献期待度」を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	<p>「交通としてのシェアサイクルの可能性」</p> <p>「地方の公共交通と自家用車の共存」</p> <p>「新型コロナウイルスによる航空業界への影響」</p> <p>「日本の空港・航空会社の環境への取組」</p> <p>「観光型 MaaS によって観光客は誘致できるのか」など</p>
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	<ul style="list-style-type: none"> 皆さんは「交通」という言葉を聞いて何を思いますか。「交通」はごく普通の生活に溶け込んでいるし、一見地味だな～って思う人もいると思います。しかし、「交通」というのは人と人を結ぶというとても重要な役割を担っており、なくてはならない存在なのです。小島ゼミは、エアライン、鉄道をはじめとした様々な交通事業に触れ、学ぶことができるゼミです。小島ゼミでの学びは自らを成長させてくれます。交通系に関心がある方、自分を高めたい方はぜひ小島ゼミへ！ 小島ゼミは鉄道やエアライン関係への関心を持っている方や、就職を考えている方にピッタリなゼミです。同じ目標を目指す仲間もきっと見つかるはずですよ。 私たちのゼミでは交通について幅広く学んでいます。自分が学びたい交通分野の知識を増やすことができます！興味のある人はぜひ話を聞きに来てください！

担当者名	塩沢 泰子 (しおざわ やすこ)
e-mail アドレス	yasuko@bunkyo.ac.jp
研究室	3432
出講日	火、水、木
ゼミの開講時間	木曜4限(3年)、木曜5限(4年)
担当科目	国際理解とコミュニケーション(2)、異文化理解演習(2)、新入生ゼミ(1)、応用ゼミナール(3)、英語オーラル・コミュニケーション論(4)、英語とメディア(6)、IE101
研究室を訪問できる時間帯	火、水の昼休み。火、木の2限など(事前にメールで連絡願います)
ゼミのテーマ	演劇的手法を活用した総合コミュニケーション力(特に英語)養成
ゼミの内容・メッセージ	英語による様々なドラマ手法(即興、スピーチ、朗読、創作劇など)に取り組み、表現力、洞察力、共感力、創造力を高めます。地域の小学生対象の英語活動にも関わり、リーダーシップと人間関係構築力を磨きます。最も重要な活動は大学祭と12月のフェスティバル(全国各地の大学が参加)での創作劇発表。ITを駆使したコメディが塩沢ゼミの伝統。海外を含めた他大学の学生との合同ドラマ合宿やゼミも実施。卒業研究は論文だけでなく、翻訳、スピーチ、英語劇など多岐にわたります。オープン・キャンパスにも積極参加。海外の大学(台湾・タイ)との交流も実施(有志)し、異文化理解に努めます。
ゼミの進め方	3年春学期はドラマ手法の基礎(理論と実践)と、小学生対象の英語教育の計画・実践に重点を置きます。秋学期は大学祭ならびにフェスティバルの準備・練習が中心。4年春学期はスピーチや朗読の理論と実践。秋学期は即興の交渉劇の実践に加え、卒業研究を進めます。3年次から進路に関するガイダンスやゼミ生同士の情報交換、自己啓発の文献紹介も行います。学期に1回程度、学外の専門家を招き、ワークショップを実施。
留意事項 (Requirement など)	大学祭ならびに12月の大会で、3年ゼミ生全員で英語パフォーマンスを発表するのが最重要課題。そのためのゼミの時間以外での練習や合宿などもゼミ生で話し合った上で合意を取り、参加していただきます。 主に夏期に国内外の大学生との英語による交流や合同合宿を行います。旅費は各自計画的に準備して下さい。 小学生対象のイベントでは3、4年合同で準備・運営をします。4、5限通しの合同ゼミが各学期2~3回あります。
ゼミ履修に望ましい科目	英語オーラル・コミュニケーション論(新カリでは「英語パフォーマンス」、英語とメディア)
定員	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類(志望動機)と面接によりますが、場合によっては抽選もあり得ます。英語力や演劇の素養の有無は問いません。
ゼミ受入決定者への指示	12月のオーラル・コミュニケーション・フェスティバルに必ず聴衆として参加すること。春休み中の課題もありますので、いつでも連絡が取れるように。
代表的な卒業論文のテーマ	「生きる力を育てる教育」、「複合劇を通して伝える異文化コミュニケーション」、「よりよい人間関係構築への距離と空間とコミュニケーション」
所属ゼミ生(先輩)からの一言	塩沢ゼミは、英語を使って様々な活動をしている active なゼミナールです。近隣の小学生たちと英語の楽しさを分かち合ったり、夏合宿で海外を含めた他大学の学生と英語で交流するのも刺激的です。最大の行事はオーラル・コミュニケーション・フェスティバルで、他の大学に混じり劇などのパフォーマンスを披露します。ゼミの時間外で活動することもあるため、忙しく、大変な時もあるかもしれませんが、ゼミ生が一丸となって困難を乗り越え、無事成功した時の達成感はひとしおです。

担当者名	清水 麻帆（しみず まほ）
e-mail アドレス	mamizu31@bunkyo.ac.jp
研究室	3516
出講日	水・木・金
ゼミの開講時間	金 4 限
担当科目	観光政策論、観光資源論、国際観光論、新入生ゼミナール・基礎ゼミナール・応用演習・専門ゼミナールⅠ～Ⅳ・国際学特論（大学院）、国際ツーリズム特論（大学院）・観光行動論（大学院）
研究室を訪問できる時間帯	原則として、原則として出講日のお昼休みとします。必ず、事前にメールで連絡をしてください。
ゼミのテーマ	文化と地域創生（専門：地域経済学・文化経済学・地域活性化・まちづくり）
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミでは、地域の様々な文化資源を生かした地域の活性化や地域創生（まちづくり）のあり方について、文化を切り口として研究します。たとえば、ゼミで取り扱う「文化」は、音楽、ゲーム、アニメ、映画・ドラマ、アイドルなどのコンテンツやポップカルチャー、文化イベント（芸術祭やフェス）、歴史的な文化遺産から生活文化まで広義のものとしします。また、ファンションやコンテンツ等の文化産業も対象とします。文化の保全・振興と経済効果とのバランスをどのように保持しつつ地域を活性化させるのかという問題に取り組みます。
ゼミの進め方	ゼミナールⅠ～Ⅳでは、地域活性化やシティプロモーションのための地域の課題を発見し、それを解決するための企画を実際に自分達で考え、実行・運営していきます。現在始動中の企画は、足立区内の「銭湯擬人化プロジェクト」と「足立をイメージしたクラフトビールの商品開発」です。今後は、足立区に加え、他地域での活性化事業にも取り組む予定です。詳しくは、後日掲示されるゼミ参考資料にアクセスしてください。Ⅰ・Ⅱで実践を学修した上で、Ⅲ・Ⅳでは、各自の関心のあるテーマを自由に選び、卒業論文を執筆していきます。
留意事項 （Requirement など）	主体的・積極的に取り組み、互いに学び合い、語り合いながら、ゼミ活動の中で、自分の軸となる考え方や意見を持てるようになります。任意（参加自由）の国内研修旅行（コロナの状況により中止の可能性あり）は自己負担ですので、留意しておいてください。今年度は、12月に久留米大学の学生との交流会を実施するため、久留米・博多に行く予定です。
ゼミ履修に望ましい科目	観光政策論・観光資源論
定員	10名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	基本的には、これまでの学習態度（成績）とし、必要に応じて面談を実施する場合があります。
ゼミ受入決定者への指示	別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	「音楽イベントを活用した日本の地域活性化のあり方と今後の展望」「空き家を活用した地方カフェの成長戦略」「ファッション産業におけるSDGsへの取り組みと若者の消費動向」「地域振興におけるeスポーツの可能性」「韓国コンテンツとファンの変容」「ホテルによる地域創生-NIPPONIAとホテル講の事例から-」
所属ゼミ生（先輩）からの一言	「このゼミは、自由に自分の好きなことについて研究でき、さらなる自分の可能性を見出すことができるゼミです。大学に来てまだ何も行動ができていない人は、このゼミに入る事をお勧めします！」「ゼミでの活動を通じて、自分の強みを生かしながら、思う存分挑戦することができ、とてもやりがいを感じるゼミです！」「今、地域を盛り上げるために実際に自分達で企画を作って実現のために動き出しています。地域活性化に興味がある人、一緒に清水ゼミに入って地域を盛り上げましょう！お待ちしております。」「足立区の活性化に関する企画を考案しました。清水先生は、学生の主体性を尊重してくださる方なので、個性を活かしてゼミ活動を行うことができます。2年生の皆さんと活動できる日を楽しみにしています！」

担当者名	菅原 周一 (すがわら しゅういち)
e-mail アドレス	suga8216@bunkyo.ac.jp
研究室	3522
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生) ただし、3, 4 年生合同のゼミや勉強会を開催することがあり、4, 5 限はゼミ時間として確保をお願いしています。
担当科目	新入生ゼミ (1)、応用ゼミ (3)、日本経済論 (3)、国際観光と企業分析 (3)、社会人の基礎力演習 (4)、ファイナンス論 (4)
研究室を訪問できる時間帯	原則として、毎週、月 (2 限、昼休み、5 限)、水 (2 限、昼休み)、木 (2 限、昼休み、3 限) ですが、ゼミ説明会を順次開催しているので、研究室訪問を希望されたい方は、上記メールアドレスに必ず連絡をして、アポを取るようして下さい。(事前予約された方を優先します。)
ゼミのテーマ	2 つのテーマを中心にゼミ活動します。1 つ目のテーマは、社会や企業が抱える課題を見つけ、解決に向けた検討、提案を行います。(最終的なテーマは、ゼミ生の話し合いにより決定します。グループワークになります。) 2 つ目のテーマは、企業分析で、企業の将来性や社会貢献度 (SDGs)、魅力度を分析、評価します。
ゼミの内容・メッセージ	菅原ゼミでは、上記のような活動を通して、4 年間の集大成に相応しい成果をまとめるとともに、並行して、社会人としての基礎力、応用力を身に付けることができます。ゼミ活動を通して、有意義で充実した学生生活を送ることができるように努めます。
ゼミの進め方	3 年生の春・秋学期では、上記 2 つのテーマを中心に活動を行います (1 人で 2 つのテーマを検討して頂きます)。1 つ目のテーマは社会や企業が抱える課題を見つけ、解決に向けた検討、提案を行います。検討するテーマは、ゼミのメンバーで相談した複数のテーマから、自分が関わりたいテーマを選び、数人のグループで検討、提案して頂きます。2 つ目のテーマは企業分析です。具体的には、企業の将来性や社会貢献度 (SDGs)、魅力度を分析、評価を各自で行い、その結果を全員で共有します。前後期 30 回のゼミで、1 人 10 社程度の企業を分析するので、最後には全体で 150 社程度の企業を分析することになります。この作業を通して、1 人 1 人の視野を広げ、いろいろな企業を見る目や就活に必要な企業分析の方法を知ることができます。 4 年生の春学期からは 3 年生のゼミ活動の内容やこれまでの学びの中から生まれた問題意識 (社会課題など) を題材として卒業研究に取り組んでいただきます。具体的には、検討テーマ、社会的意義について、先行研究の調査を進めながら検討を行い、次に現状把握、問題点の整理、仮説の設定などを行います。最後に仮説の検証や結論、提案などをまとめて、パワーポイントの資料を作成して頂きます。秋学期では、春学期に検討した内容を再整理して、論文の執筆に入り、12 月末を目標に卒業論文を完成させます。
留意事項 (Requirement など)	ゼミ活動に原則として必ず参加すること、協調的、積極的であることが必要です。海外ゼミ合宿 (ハワイで実施予定) も原則として全員参加して頂きます。その他、ホテル合宿なども実施予定です。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	15 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接、書類審査等により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	できるだけ早く個別に面接を行うとともに、今年度中にオリエンテーションを行います。
代表的な卒業論文のテーマ	各自で興味を持った企業・業界に関する調査・実証分析、将来性に関する研究が中心で、「アイデンティティの形成とファッション行動」、「これからの観光産業の在り方 ～ポストコロナを踏まえて～」、「日本における新しい LCC 戦略の提案」、「ハワイにおける観光業の可能性と限界」、「ホスピタリティの源流と可能性」、「企業における従業員満足と顧客満足の関係性」、「若者の長生きリスクとリスクヘッジのための提言」など。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	菅原ゼミで学ぶ内容は自分の将来の役に立つことばかりです。観光という狭い業界に限定せず、幅広い分野の企業を知ることができます。さらに、これまで学んできた内容を活かした活動に挑戦する機会とサポートもあります。そのため、自分の将来にまだ迷っている方でも活動しやすいゼミです。就職活動の準備を早くから少しずつ行うなど、就活に向けた活動も積極的です。勉強だけでなく、BBQ や夏合宿、クリスマスパーティーなど、楽しいイベントもたくさんあります！夏合宿では毎年ハワイに行っています！優しい先生の下で、ゼミ生と助け合いながら勉強に取り組み、遊ぶ時は全力で楽しむ、メリハリのある活動をしています。理解学科の人も楽しく過ごしているので、学科問わず誰でも大歓迎です！菅原ゼミで大学生活の充実した思い出を作りましょう！

担当者名	杉山 富士雄 (すぎやま ふじお)
e-mail アドレス	sugiyama@bunkyo.ac.jp
研究室	3416
出講日	火曜日、金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4 限 (3 年次)、金曜日 5 限 (4 年次) 変更の可能性もあり。
担当科目	経済学、産業組織論、企業の競争戦略の経済学、食と農の経済学、観光の経済学
研究室を訪問できる時間帯	火曜日 3 限、金曜日 3 限、4 限
ゼミのテーマ	競争戦略論で読み解く観光業界・企業
ゼミの内容・メッセージ	卒論で研究して欲しいテーマは以下の通り。但し観光業界全般も可能 B 級グルメで地域活性化の問題点 JR 東日本の駅ナカビジネス インバウンド一極依存の観光ビジネスの崩壊 ビーン・ツー・バーのチョコ専門店とサード・ウェイブ・コーヒー 居酒屋の苦戦と焼き肉業態への転換 コロナ禍の外出産業の苦戦と新ビジネスの抬頭 ワイン・ツーリズム (仏・伊・米国) とバスク美食巡り
ゼミの進め方	学生の自主的な研究を重視しますが、ゼミの発表は、できるだけ現場調査し、文献データを現場調査で得た感覚から再確認。その上で改善提案を検討する。3 年次はポーターの『競争戦略』を読み解く。
留意事項 (Requirement など)	新型コロナの影響で、この 2 年間はゼミで学外調査が実施できなかったが、2017 年から 2019 年にかけて石和温泉と桔梗屋工場、横須賀カレーとペリー記念公園、宇都宮餃子と大谷石の採掘場、富岡製糸場と長瀬、静岡市登呂遺跡と富士山静岡空港などの学外調査に出ていた。2023 年は学生の希望を聞き、学外調査を実施予定。
ゼミ履修に望ましい科目	私が担当する上記科目
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類審査と面接
ゼミ受入決定者への指示	3 年次ゼミが始まる 4 月前に、飯田泰之「地域再生の失敗学」光文社新書と藻谷浩之・山田桂一郎「観光立国の正体」新潮新書を読むこと。
代表的な卒業論文のテーマ	テーマパークの経営比較 (2016 年)、ペリー来航とみなとみらい地区の歴史 (17 年)、富岡製糸場 (17 年)、湯河原温泉街の活性化 (2017 年)、ベイスターズの経営再生 (18 年)、中国人爆買い終焉 (2018 年)、真珠養殖の歴史と田崎真珠 (18 年)、B 級グルメ (宇都宮餃子、生馬麵、富士吉田うどん) と地域活性化、越後湯沢の温泉街活性化 (19 年)、横浜ハンマーヘッド (20 年)、タピオカミルクティーのブーム終焉 (20 年)、日本人とラーメン (20 年)、ケンタッキーフライドチキン 500 円ランチの衝撃 (20 年)。みなとみらい・鎌倉観光、北千住の昭和カフェ、コロナ禍のホテル宴会需要、無印カフェの社会貢献、池田町ワイナリー巡りなど内容多彩。

担当者名	孫 美幸 (そん みへん)
e-mail アドレス	sonmihen@bunkyo.ac.jp
研究室	3521
出講日	火・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4 限・5 限
担当科目	基礎ゼミ、応用演習、専門ゼミ、国際学入門、多文化社会と共生、開発教育論、国際学 A、国際理解とコミュニケーション、多文化交流特論 (大学院科目)
研究室を訪問できる時間帯	出講日で調整しますが、オンラインでも可能です。まずは、メールで連絡をください。上級生と直接話せる機会を設定し、専門ゼミの時間に見学や参加可能な日を作ります。詳しくは、Google Drive にある予定表を見てください。
ゼミのテーマ	ホリスティックアプローチを通して、自分の進路を見つめ、平和な未来、多文化共生社会を描く。
ゼミの内容・メッセージ	「ホリスティック」というコンセプトには、「つながり」「包括性」「バランス」の 3 つの特質があります。世界各地の研究者や実践者のみならず、国連・ユネスコ機関で共有されている考え方です。多様な背景をもつマイノリティの人々に寄り添いながら、人が人を支え育み、共に成長する社会や教育のあり方を考えていきます。 このゼミでは、ゼミ生の卒論テーマを見ればわかるように、それぞれの関心領域から、多文化共生社会や平和な未来を考えていきます。担当者による発表やディスカッションを行い、関連するゲストとの交流、海外の学生との交流もしながら、関心テーマを深め、自分の卒業後の進路や活動へとつなげていきます。
ゼミの進め方	【3 年生春学期】 ホリスティックアプローチに関わるゲストとの交流をしながら、フィールドに出て、体験的な活動を重ね、自分の関心テーマを探していきます。毎年集まってくるメンバーによりゲストも様々です。 【3 年生秋学期】 自身の研究テーマを決め、卒業論文の基礎固めをしていきます。韓国や台湾の学生たちとのオンライン交流、ゲストとの交流やフィールドに出る機会を創って自分の将来像ともつなげていきます。 【4 年生】 昨年度までの研究をもとに、卒業論文の執筆を行っていきます。また、卒業論文を自分の生き方の軸の一つとなるように整理していきます。 【夏休み】 海外の多文化・多民族社会を訪ね、自然環境を守る活動団体との交流も含めたフィールドワーク (マレーシアパナン島、シンガポールなど) を実施します。ただし、昨今の社会情勢により、今年度は 2 日間現地とつないでオンラインの実施となりました。
留意事項 (Requirement など)	ゼミ活動として年間で行っているフィールドワーク (海外と国内) について、自身の予定調整や経済的なこと (20 万円程度) を準備すること。ただし、社会状況により全てオンライン実施になる場合は、経済的な負担は参加費程度になります。
ゼミ履修に望ましい科目	異文化理解や多文化共生社会をテーマにした科目群。
定員	12 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類と面接で選抜します。関心のあるテーマとの合致性やゼミ活動への参加意欲などで判断します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入れ決定後、3・4 年生と一緒に顔合せ会を行います。その際、4 月までにやっておくことなど予定をお話します。
代表的な卒業論文のテーマ	【今年度 4 年生が取り組んでいるテーマ】 ・発展途上国における学習継続 カンボジアを例に ・就職活動における統一された就活スタイルの変遷分析 ・日本の月経観とタブー解消に向けての考察 ・日本の同調圧力 ・日本における悪質クレームと対応策 ・日本人女性に健康被害のないダイエットのあり方 ・不安障害に対する理解度を進める方策 ・日本社会における化粧文化の変遷 ・日韓 FTA の分析 ・アメリカにおける K-POP 人気とアジア人差別解消に向けて ・デジタル社会におけるデジタルデトックスの方法検討 ・日本の若者の恋愛事情と「恋愛教育」の可能性 ・マネージャーからみるスポーツとジェンダー ・アニメファッションのさらなる発展の可能性
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	【他の 3 年生からの多くのメッセージは Google Drive の中で見るができます。ぜひ読んでください。】 ・私が考える孫ゼミの良さは、考え方の幅が広がるということだと思います。孫ゼミは性別・学科・国籍が様々な学生が集まっています。一緒にゼミ活動を行う中で、自分一人では思いつかない考え方や視点を共有することができ、自分の成長に繋がります。また、活動の内容は主に異文化理解となっていますが、学生主体の活動を行うので、自分たちの意志に沿った活動が出来ます。卒論内容も自由です。自分たちで計画・実行していく中で、社会人に向けての自立が出来ます。みなさんは是非孫ゼミに足を運んでみて下さい。お待ちしております。(理解 3 年原永莉子)

担当者名	種村 聡子 (たねむら さとこ)
e-mail アドレス	stane@bunkyo.ac.jp
研究室	3504
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金 4 限目 (3 年生)、金 5 限目 (4 年生)
担当科目	観光サービス、国際観光とホスピタリティ、観光ビジネスプロジェクト演習 I・II、新入生ゼミナール、基礎ゼミナール、応用演習、専門ゼミナール I～IV
研究室を訪問できる時間帯	メールにてご連絡ください。
ゼミのテーマ	ホスピタリティ・マネジメント
ゼミの内容・メッセージ	ホスピタリティは心理学や社会学、経営学などの様々な学問分野から研究がなされていますが、私は経営学からアプローチしています。このゼミでは、ホスピタリティの概念を経営に取り入れている企業や組織に焦点を当て、顧客満足と従業員満足、従業員の行動と管理、人材育成について学びます。接客の優劣、お辞儀の適切な角度といったノウハウだけを学ぶのではなく、従業員の行動が顧客に与える影響などについて検討します。そのため、文献で知識を得ることとフィールドワークの往還を重視します。主に企業活動を取り上げますが、ホスピタリティの概念を学ぶことは、広く社会生活でも役に立つことだと思っています。周囲の人と発展的な関係を築いていくための過程を探求したい人は、ぜひご検討ください。
ゼミの進め方	<p>3 年時は、文献の輪読 (春学期はホスピタリティ・マネジメントの教科書、秋学期は論文) とディスカッション、フィールドワーク、企業見学を通して各人興味のあるテーマを決めます。並行して、チームでプロジェクトを計画実施し、年度末には他大学と合同で開催する研究発表会に参加します。内容はエアライン、ホテル、ウェディングなどに対する提案や課題解決を考えていますが、ゼミ生の意見を聞きながら決定します。</p> <p>4 年時は、3 年時に興味を持った内容を卒業論文で論理的にまとめます。論文執筆と並行し、春学期はチームに分かれてリサーチをします。</p>
留意事項 (Requirement など)	合宿や企業見学を予定しているため、費用が必要です。
ゼミ履修に望ましい科目	国際観光とホスピタリティ、観光サービスなど
定員	14 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接と書類審査により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	個別面接と顔合わせ会 (1 月末予定) を実施します。実施日時は別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	「旅館のおもてなしに関する研究—外国人観光客に対する接客」、 「人に好感を持たせる第一印象」、「サービスとホスピタリティの違い—求められるホスピタリティはコロナ過で変化するのか—」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	このゼミナールは、元 ANA の客室乗務員だった種村先生とともにホスピタリティ・マネジメントについて研究します。エアラインやホテルなどといったサービス業に興味のある人やまだ何をやりたいか決まっていな方、幅広い分野を視野に入れてホスピタリティ・マネジメントについて研究できます。サービス業のフィールドワークを行うため、多くの企業を知ること可能です。

担当者名	千葉 克裕 (ちば かつひろ)
e-mail アドレス	ch1ba@bunkyo.ac.jp
研究室	3526
出講日	火 水 木
ゼミの開講時間	木4 (3年) 木5 (4年)
担当科目	上級リーディング, ESP E(多読多聴演習), 英語学概論, 心理言語学
研究室を訪問できる時間帯	昼休み、オフィスアワー(火2限5限・水2限・木2限)にどうぞ。 ゼミ見学は事前に申し込んでください。
ゼミのテーマ	効果的に外国語を身につけるにはどうすれば良いのか？ ー第2言語習得理論の理解と学びの実践ー
ゼミの内容・メッセージ	第2言語習得に成功する人はなにが違うのでしょうか？この問いに答えるために、まずは 自分の英語力をしっかりと磨き 、そのプロセスを通して「なぜうまくいかないのか？どうしたら効率的に身につくのか？」、 第2言語習得の仕組みについて学び 、その気づきを生かして英語力を高める効果的な学び方や教えるための技術を身につけます。 また、読書が苦手な人のために文献を読むための読書法や思考の整理法（マインドマップ）など「 学び方を学ぶ 」ことにも重点を置きます。将来の仕事にかかわらず、自分の好奇心に従って問を立て、調べ、まとめ、発表する力を養います。高い英語力と根拠に基づき論理的に議論する能力を身につけ、「 将来英語を使って仕事をしたい人 」や「 理論に基づいた英語教育をしたい人 」の参加をお待ちしています。 ”自ら学び、ものを考える人になろう！”
ゼミの進め方	3年春学期：基礎的研究力の育成 ・新しいノートの取り方(マインドマップ)を学び、新しい思考法を身につける ・本の読み方(速読法)とまとめ方・発表の仕方を学ぶ ・新書をたくさん読みながら読書力と教養を蓄える ・語彙力と文法力を強化する(目標 TOEIC650点) 3年秋学期：研究のためスキルアップ ・第2言語習得研究(SLA)の入門書を輪読しながら研究の方向性を模索する ・研究の方法を学ぶ(問いの立て方・文献検索の仕方・情報整理の方法など) ・先行研究論文のレビューとゼミ発表を通して議論する力を養う ・多読・音読・を通してスピーキング力を高める ・発音の矯正と長文読解力の養成(目標 TOEIC700点) 4年：卒業論文の作成 ・自己の英語学習の気づきから研究テーマを決定し、卒業論文の作成に取り組む
留意事項 (Requirement など)	・事前の研究室訪問で十分な説明を受けるようにしてください。 ・ゼミ合宿(国内)と Mindmap®講座は全員参加でお願いします。
ゼミ履修に望ましい科目	英語学概論、英語音声学、英語表現、心理学、統計学など
募集人数の上限	10名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	TOEICを受験し(IPも可)、スコアを提出。 春休みは何でも良いので読書を楽しんでください。
代表的な卒業論文のテーマ	「多読学習の効果」「多読学習者の読解速度についての考察」「動機づけの原因帰属理論」「語彙学習における効果的な学習方略」「日本人の語用論的能力の育成」
所属ゼミ生(先輩)からの一言	千葉ゼミでは、学び方を学び、自立と自律ができるようになります。教育・英語・脳科学・思考、それぞれに研究に基づいた専門的な知識によって、英語をより良く学ぶ・教える、より効率良く思考するにはどうすれば良いかなど深く学ぶことができます。またその先の、自分でどう学び続けるか、自分をよくしていくかということを論文や書籍、マインドマップを活かした論理的思考によって学んできました。 さらに、質を大切にする千葉先生はただ教えるのではなく、私たち学生一人一人と対話し、必要に応じたアドバイスで、学生が主体的に学ぶことを助けてくれます。千葉ゼミでの2年間にわたる学びのおかげで、私の学習の興味や質は、圧倒的に広く深いものになりました。言語や英語に興味がある方、教員を目指している方、自分を見つめ直して深く学びたい方、ぜひ千葉ゼミと一緒に成長しましょう。

担当者名	利根川 由奈 (とねがわ ゆうな)
e-mail アドレス	cruela53@bunkyo.ac.jp
研究室	3529
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金 4 (3年生)、金 5 (4年生)
担当科目	観光と交流、交流文化論 B、文化政策論、アートマネジメント論、地域開発とミュージアム、新入生ゼミ、応用演習、専門ゼミ (春) 交流文化論、基礎ゼミ、専門ゼミ、地域文化マネジメント特論 [院] (秋)
研究室を訪問できる時間帯	事前にメールでご連絡をお願いします。
ゼミのテーマ	文化のマネジメントを学ぶ・体験する・実践する
ゼミの内容・メッセージ	具体的なコンテンツや場所、美術作品を検討対象として、観光や交流文化、地域文化におけるそれらの位置づけや、社会におけるそれらの役割、文化のマネジメントなどについて考えたい方を歓迎します。私の守備範囲としては、美術史 (現代美術やミュージアム、展示を含む)・文化政策史 (主に 20 世紀～現代ヨーロッパ・アメリカ・日本)・表象文化論 (映画、MV、広告、ファッションなど) になります。 私はゼミ生のみなさんに、ゼミ生の意見や文献、実地体験によっていかに自分の考えを発展させ、現実的な着地点を見つけることができるかを学んでほしいと考えています。興味のあるトピックがあるけれど悩んでいる方がいましたら、ぜひ相談してください。
ゼミの進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生による話題提供：担当者を決めて、簡単な話題提供をしてもらい、それをもとに全員でディスカッションします。 ・展覧会見学：ゼミ生で話し合い、行く場所を決めます。2021 年度は国立新美術館、THE TOKYO TOILET、2022 年度はスコットランド国立美術館展 (東京都美術館) に行きました。 ・アートマネジメント団体との協働：地域にアートマネジメントがどのように根付いているか、どのような活動をしているか、を実際に体験してほしいと考えています。アートアクセスあだち、東京都現代美術館との連携を考えています。
留意事項 (Requirement など)	<p>*利根川ゼミ志望の方には、「志望理由書」とこれまでの成績を提出していただきます。面談時にご持参ください。</p> <p>*利根川は 2023 年度いっぱい育休ですので、三井麻央先生に代講していただきます。2024 年度から利根川が復帰します。</p>
ゼミ履修に望ましい科目	「交流文化論」、「文化政策論」、「アートマネジメント論」
募集人数の上限	11 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	個人面談・志望理由書・これまでの成績の総合評価で決定します。
ゼミ受入決定者への指示	決定後にご連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	建築 (西澤立衛と十和田市現代美術館)、ファッション (ストリート文化とファッション、シャネルの流行史) など
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	「アットホームでみんな仲良いです！」(4年生)「やりたいことがある人は、提案すればたいていやれます」(3年生)「毎回ディスカッションの時間があるので疲れますが視野が広がります」(3年生)

担当者名	黛 陽子 (まゆずみ ようこ)
e-mail アドレス	mayuzumi@bunkyo.ac.jp
研究室	3525
出講日	火・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 *4 年時は木曜 5 限ではなく変更の可能性あり
担当科目	新入生ゼミ、応用演習、生態学、観光とソーシャルビジネス、国際観光とサステナブルデザイン、インタープリテーション論(理論・応用)、情報デザイン特論 (大学院)
研究室を訪問できる時間帯	メールにて面談日時のアポイント必要 (オンラインのみ) *ゼミ説明は別途、文書と動画をドライブにアップロードします
ゼミのテーマ	*サステナブルなツーリズムと地域産業づくりへの取り組み *ヘリテージ (地球の遺産) を次世代へ維持する取り組み *農業を主題としたルーラルツーリズムの学びと実践 *ヘリテージ・インタープリテーションの実践 「知る・調べる→創造する→伝える→つなぐ→解決策提示」
ゼミの内容・メッセージ	黛ゼミでは、観光地のヘリテージ (自然・伝統文化・文化遺産・生活慣習) に対し、地域に密着したゼミ活動で学生自らが深く理解し、ガイドやメディアで伝え、さらにそれを持続可能な形でまもっていくことを実現する力をつけるゼミです。黛ゼミのフィールドはバリ島、軽井沢、高山と多岐にわたりますが、主軸はバリ島です。3 年時にはゼミ生全員でバリ合宿に行きます！インタープリテーションは精神的文化度の進んだ先進国で発達したものです。ヘリテージに付加価値を与えるだけでなく、観光地に人を惹き付けるマーケティングの手段としても利用できます。インタープリテーションのターゲットは、ある程度の知識や社会的地位、生活レベルの高い人々であるのが現状です。それは、ヘリテージを深く知り、守ろうと思う人々は、毎日の生活に余裕があることが必要とされるからです。この人々をお客様にするためには、各自フィールドを持って「専門的かつ誠実にヘリテージを知り尽くす姿勢」がもっとも大切であり、これがゼミの学びの精神です。現地の自然環境、伝統文化、生活慣習などの多くの課題を直接見て知り、ヘリテージへの本当の理解者を増やす流れを作るビジネス研究を行います。日本では今後ますます期待される分野です。地球と観光発展にとってサステナブルなツーリズムと地域産業を一緒に育てていきましょう！
ゼミの進め方	[インタープリテーション理論の学び]=授業で受講 [インタープリテーション実践の学び]=ゼミ活動で実践 *3 年時：バリ島学習と合宿・ヘリテージへの訪問とガイド実践 *4 年時：フィールド調査や実験を用いた卒業論文を書きます
留意事項 (Requirement など)	コミュニケーションを率先して行なうことが出来る、また、体力のある学生さんをお待ちしています。学外活動では交通費や宿泊費が必要です (軽井沢 2 万円・バリ島 17 万円 10 泊・高山 2 万円など)
ゼミ履修に望ましい科目	ゼミ活動では、実践を主とする為に、インタープリテーション論(理論・応用)、観光とソーシャルビジネス、はゼミ生全員必ず受講。
定員	12 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接を実施する。(オンライン)
ゼミ受入決定者への指示	決定後にオンラインで顔合わせ会の実施。3 年生直前の春休みに合宿または事前学習会の実施
代表的な卒業論文のテーマ	農村観光ビジネス化研究・地場産業の商品開発とブランディング研究・伝統芸能の持続可能性研究・メディアツールの制作研究など
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	黛ゼミナールは、1 年を通して様々な課外活動が行われるとても活発なゼミナールです。夏に行われるバリ合宿は、実際に現地の方との交流をすることで、観光だけでは分からない本当のバリを学ぶことができます。合宿によって自己課題を見つけることができ、その後のゼミナール活動に対してとても意欲を持って取り組むことができます。バリ合宿を終えた後、ゼミナールメンバーの絆はとても硬いものになりました。黛ゼミナールは、ひとつひとつの学びが深く、とても充実したゼミ活動を行なっています。自然や人との交流が好きな学生におすすめしたいゼミナールです！ (バリ島に行けた 2019 年度生の声。2023 年度は実施予定です)

担当者名	丸山 鋼二 (まるやま こうじ)
e-mail アドレス	maruyama@bunkyo.ac.jp
研究室	3523
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金4 (3年生)、金5 (4年生)
担当科目	【春学期】新入生ゼミ、応用演習、中国語 I、歴史学、地域研究 G(北東アジア・極東ロシア) 【秋学期】現代中国論(⇒アジアの多文化共生)、外国史 B(東洋)、中国語 I
研究室を訪問できる時間帯	出校日である火・水・金曜日の昼休み。希望者は事前に上記のアドレスにメールにて連絡をお願いします。
ゼミのテーマ	「東アジアの多文化共生社会を考える」
ゼミの内容・メッセージ	ゼミの中心的なテーマは、東アジアの日本・中国・朝鮮韓国において、さらには東南アジアやインド洋諸国を含めたアジア・太平洋地域において多文化共生社会をいかに構築していくかという実践的な課題です。東アジアでは経済的な相互依存関係が深まっているにもかかわらず、領土問題や戦争責任問題等で摩擦がしばしば発生する日中・日韓関係、あるいは南シナ海に軍事進出する「中国の台頭」、こうした問題をいかに解決していけば摩擦を少なくし友好を深めることができるのかを考えていきます。 まず多文化共生社会とはどのような社会であるのか、そのためにはどうすれば良さを学ぶことから始めます。さらに、日中韓関係やアジア・太平洋地域の現状とこれまでの歴史を学ぶだけでなく、多文化社会を掲げている米国やカナダ、オーストラリア、EUなどの事例、世界の民族紛争・人種問題やその解決方法(平和構築過程や民族政策など)、また身近なはずの日本政府・東京都・足立区などの外国人(移民・難民)政策と現状を知っておくことも理解と実践に役に立ちます。多文化共生社会を理解するだけでなく実践できることを目指しましょう。 サブテーマは日中韓関係、北朝鮮問題、香港・台湾問題、日本のアジア外交、アジア共同体論、地域経済圏(ASEAN、TPP、RCEP など)、異文化理解・異文化交流、比較文化論、民族紛争、少数民族問題、人種差別問題、国際和解学(平和学)、貧困・格差・差別、NGO、ボランティア等です。
ゼミの進め方	3年次：各自の選んだ文献の購読・輪読、発表、問題提起、質疑応答、討論 4年次：各自の問題意識と知的関心に基づき卒業論文を執筆・作成
留意事項 (Requirement など)	「現在の世界と日本を知り、これからの社会を生き抜いていこう」という意志を持った学生諸君の参加を期待します。留学生の皆さんも歓迎します。できればアジアの歴史を知る study tour にチャレンジしたいと思います。
ゼミ履修に望ましい科目	文化人類学、英語音声学、民族の歴史と世界、平和学、NPO・ボランティアの理論、現代思想、地域研究、外国史 B (東洋)、多文化社会と共生などを推奨。
定員	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	所属学科や領域に関係なく希望者全員と面談。自分の関心のあること、いま感じていること、どんなゼミにしたいか、将来の希望、自己アピールなどをお聞きします。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ所属決定後に指示を行ない、実質的にゼミ活動がスタートします。
代表的な卒業論文のテーマ	各自の問題関心に従って卒業論文を書いてもらいます(SDGsに沿ったものを推奨)。 代表例：「戦後補償問題をどのように解決するか」「東洋医学について考える」「台湾独立問題」「インドネシア華人問題」「祖母の満洲時代」「チベットの行方」「中国の人口問題」「日中韓の教育と、そこから見る歴史」「東アジアの環境協力」「日本のメディア記者クラブのあり方について」「中国の歴史的過程と新民主主義」「非営利組織のマーケティング」「中国の環境問題(日本と中国のゴミ処理)」
所属ゼミ生(先輩)からの一言	「私は中国から来た留学生です。歴史研究や中国の対外関係に関心を持っていて、別の視点から研究していけば面白いかなと思い、丸山ゼミに入りました。ゼミでは、自分がやりたい分野について先生が親切に指導してくれますし、論文の書き方も丁寧に教えてもらっています。」

担当者名	本浜 秀彦 (もとはま ひでひこ)
e-mail アドレス	motohama@bunkyo.ac.jp
研究室	3514
出講日	2022 年度 (春学期) 火、木、金 (秋学期) 水、金
ゼミの開講時間	金 4 限、5 限
担当科目	「国際理解と文化」、「比較文学」、「日本ポップカルチャー論」など
研究室を訪問できる時間帯	追って掲示をしますが、メールでの問い合わせ&予約が確実です。
ゼミのテーマ	視覚文化論 (映像と身体)
ゼミの内容・メッセージ	<p>ゼミのテーマを、担当教員の研究の新たな方向性に合わせ、映像と身体に注目した視覚文化論に設定しました。具体的には以下の内容となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画 (映像) 作品の分析 *本ゼミではアニメ作品は対象としません。 海外や日本の映画作品を、まずは観て楽しみ、続いて「深掘り」することで、世界の国々や日本の歴史、文化、社会などを学びます (「国際理解と文化」の授業では、英国の歴史や文化などを映画から読み解きましたが、そんな感じ)。併せて映画研究の諸理論についての知識や理解を深めます。映画は数多く観ることになるでしょう——と、ここまではなん無しですが、以下は新たな挑戦となります。 ・映画 (映像) 作品 (フィクション/ドキュメンタリー) の制作 本ゼミで、映画 (映像) 作品を制作します。とは言え、教員は、映画に関する論文・評論は文学研究の関連から数多くあるものの、映画作品の実際の企画、制作については現在「勉強中」。撮影・映像編集の技術については、教えるというよりも、ゼミ生と共に学び、撮影に詳しい学生から手助けもしてもらいながら——となることをお許しください。教員の撮影および映像編集の技量の不足は、活躍中の映画監督を招いた授業や、学外の映画・映像関係者のサポートなどで補います (なお、特別な撮影機材を用意する必要はありません)。映画の制作にあたっては、メインのキャストもゼミ生がつとめるため、劇団の俳優らを招いた演技指導などもゼミの授業として行います。 <p>何といっても今は、スマホで撮影した動画で劇場映画をつくることのできる時代。重要なのは、時代とどうシンクロし、現代社会が抱える問題と対峙できるかどうか、人間を、映像と物語で表現したいという意志があるかどうか、ということです。こうした考えに共鳴する学生はぜひ本ゼミの扉を叩いてください (何分新たな挑戦のため、コケないとは正直言い切れず、もしコケた場合は——ゴメンナサイ!)。</p>
ゼミの進め方	上の欄で言い尽しました (ふう〜)。
留意事項 (Requirement など)	映画、演劇、音楽、文学などに関心のある学生向きのゼミです。映画をめぐる歴史・諸理論を学ぶ「座学」に加え、演技の稽古、映画の撮影や撮影のための「ロケハン」などのフィールドワークあり。新型コロナが収束したら、撮影や映画祭参加を兼ねたゼミ合宿も行いたし。
ゼミ履修に望ましい科目	「国際理解と文化」、「日本研究 A」、「日本研究 B」など
定員	10 人
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接 (Web 面接を併用する場合あり)
ゼミ受入決定者への指示	追って連絡
代表的な卒業論文のテーマ	現代日本の化粧文化、女子トイレ文化論、ドキュメンタリードラマと方言、日本の男性アイドル論など。今後は、ゼミ生による映画 (映像) 作品の卒業制作をもって、卒業論文に代え (られ) る可能性あり。今後の検討 (交渉? 確認?) 事項とさせていただきます。

担当者名	山田 修嗣 (やまだ しゅうじ)
e-mail アドレス	yamashu@bunkyo.ac.jp
研究室	3413
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4 限・5 限
担当科目	【春学期】市民の環境貢献、社会で役立つ統計知識、景観と風景のまちづくり、地域調査演習 【秋学期】環境社会学、国際化・情報化時代の社会学、国際理解と社会・経済
研究室を訪問できる時間帯	研究室は火曜（昼休み）と金曜（昼休み）、ゼミはいつでも見学可能です（オンライン授業となった場合でも見学できます）。
ゼミのテーマ	ステキな「まちづくり」の研究 ～これからの「望ましい社会」にむけた市民と地域の検討～
ゼミの内容・メッセージ	私たちはどのようにステキなまちをつくることができるか。この問いを土台に、地域社会の望ましさの実現を、市民の役割とともに考えます。たとえば、1) 市民の地域活動と地域形成（参加と決定を含む）、自治体の地域づくり施策、環境・市民教育、企業の社会的貢献、地域活性化等を、2) 国内外の関連課題や、身近な生活・文化の比較考察と関連させ、3) さまざまなまち（地域）の姿として検討します。社会学をもとに、参加者と議論しながら考えるスタイルのゼミです。可能なかぎり現地調査も交え、市民活動への参加を通じて体験的に問題解決の糸口を見つけます。そして、私たちのこれからの「社会」について検討を重ねていきます。
ゼミの進め方	月に 3 回程度、文献購読を行います。発表者はレジュメをつくって報告し、その後、全員で討論します。発言のない人は出席と認めないルールにしています。また参加者は、プロジェクトチーム（研究班）に入ってもらいます。これは 3・4 年生合同で編成し、卒業研究にむけた研究を進めるグループです。各月の最終週をこの時間とし、年度内に数回、報告会を開きます。合宿の他、社会調査やまちづくり実習、他ゼミ（他大学）との交流、海外研修（希望者のみ）を行い、現地体験の機会も作ります。
留意事項 (Requirement など)	みんなで作るゼミを目指し、4 月に全員で年間方針を決めます。決定後は、この方針にしたがってもらいます。なお、夏合宿、他大学との交流、調査や実習は、全員参加を原則とします。
ゼミ履修に望ましい科目	それぞれの関心を持ちよってもらいたいので、とくに定めません。
定員	12 名（学外での研究活動を実施する予定があるためです。）
選抜を行う必要性が生じたときの方法	もし定員をこえた場合は、選抜方法を該当者にメール（大学のアドレス宛）で連絡します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ開始前に顔合わせを行います。日時と方法は個別にメールで連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	研究室にて、卒業論文を閲覧可能です。また、卒業研究発表会のポスターも Google Drive で公開されていますので、参考にして下さい。
所属ゼミ生（先輩）からの一言	学年関係なく仲良くアットホームな雰囲気のできるゼミです。先生主体ではなく、学生主体のため、自分で考える力を身につけることができます。また、学外活動で他大学との交流や自治体イベント等に参加することもあり、地域交流ができる所も長所だと思います。このような山田ゼミにぜひ入っていただけたら嬉しいです。

担当者名	渡邊 暁子 (わたなべ あきこ)
e-mail アドレス	watanabe@bunkyo.ac.jp
研究室	3517
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4・5 限
担当科目	移民と難民、民族の歴史と世界、地域研究 (東南アジア)、文化人類学、農村社会開発論、持続可能な世界、ボランティア入門、サービスマーケティング、フィールド調査法演習 (大学院)、開発人類学 (大学院)
研究室を訪問できる時間帯	ゼミ生による相談: 月・水・木 (昼休み) @3517 研究室 ゼミ訪問・ゼミ運営の見学: 木曜 (4~5 限): Google ドライブに保管している任意資料でゼミ見学可能日・教室などを確認してください 教員との面談: Zoom (日時対応しますのでメールでご連絡ください)
ゼミのテーマ	「人びとの目線から現代社会の課題を考える」 キーワード: 文化人類学、フィールドワーク、宗教、貧困、格差、社会的排除、移民・難民・国際労働移動、マイノリティ、コミュニティ 国際協力に限らず、政治や経済、自然現象など様々な出来事は、社会のあり方や個人の生活にどのような影響を及ぼすのでしょうか。また、コロナ禍において、個人は様々な制約のなかで生きづらさを感じながらも、何を大切に、どのように生き抜いているのでしょうか。 開発協力や地域づくり、市民活動を含め、他者とのかかわる際に、その地域や組織、人々について学ぶことから始まります。本ゼミでは、学びの手法として、文化人類学の調査手法であるフィールドワークをベースにしなが、個人、地域、歴史、関係性の視点から課題に切り込んでいきます。
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミでは、一つの答えや解決策をみつけることだけを目指すのではなく、人びとに寄り添い、それを取り巻く社会の問題群に焦点を当てたり、多様なアクター間の相互作用で作り出されるプロセスを分析したりすることにも重きを置きます。テーマは海外の事象に限りません。国内活動と国際的活動をつなぐ知見と実践知 (フィールドワークなどの学外でのゼミ活動) を深めていく学びの空間を、学生と教員が協力しながらつくっていきたくて考えます。 ※2 年次後半に顔合わせとリアルまたはオンライン合宿をして、ゼミの目標や活動の内容について話し合っ決めていきます。
ゼミの進め方	※基本的には、自分たちで計画を考えます。下記は近年の例です。 3 年次: 本ゼミとサブゼミがあります。本ゼミでは、春学期は、履修者が選んだ文献をいくつか講読し、ゼミ履修者による発表や全体討論、ディベートをおこないます。秋学期は、履修者の関心のあるテーマに沿った研究 (ゼミ論) の発表および議論を中心とします。1 年を通じて、履修者が自ら「考える・調べる・伝える」を一通りできるように進めていきます。2022 年度のサブゼミでは、食、貧困、性教育の 3 つのテーマグループをつくり、研究・実践活動しています。 4 年次: 卒業論文執筆にむけた具体的な研究・調査計画をたてます。各自のテーマと内容について、報告をし、討論しながら精緻化していきます。一方で、時事問題の記事等をテーマにし、社会人として求められるコミュニケーション力や討論の技術などを磨いていきます。
留意事項 (Requirement など)	これまで 3 年次の夏休みに、任意参加で海外フィールドワーク研修をフィリピンにて実施してきました (2022 年度は、コロナ禍のため実施いたしません)。2023 年度の実施の有無や内容について 5 月上旬から決めていきますので、一緒に検討してください。フィリピン研修の中身について、2019 年度は「都市貧困層の現状と課題」をテーマに、子どもの保護施設、スラム地域、国際 NGO が支援する住宅再開発地域、社会的企業、ムスリム集住地区にて、対象地域の人々が抱える課題と体系的な支援のあり方 (保護、支援、自立) について聞き取りをおこない、同世代の若者と交流をしました。
ゼミ履修に望ましい科目	「文化人類学」「移民と難民」「民族の歴史と世界」「開発教育論」「NPO・ボランティアの理論」、その他国際学部の関連科目を履修していることが望ましいです。
定員	12 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接 (上限を超えた場合、面接日を設定して連絡します。) 希望調査票の内容を重視しますが、目的意識を持っているかどうか、周りとの協調して活動を進められるかがポイントになります。学科の異なる学生がともに学ぶことで得られる相乗効果を期待したいので、特定学科を優先することはありません。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入決定後、授業の合間を縫って顔合わせをし、春休み中 (2 月ごろ) に、受け入れが決定した 2 年生と 3 年生を合わせた合宿も企画・実施します。そこでは、2 年生は各自の関心のすり合わせと次年度の大まかな予定を決めていきます。ぜひ参加してください。
代表的な卒業論文のテーマ	「タイにおける少数民族難民と教育」「在日ムスリムとの付き合い方」「LGBT という言葉の広がりとその背景」「スイスと英国から分析する日本のフェアトレード市場の改善点」「片目失明者の現状と今後」「新型コロナウイルスと障害からみる子どもたちが抱える教育格差の『壁』」「移民 2 世の国籍選択とエスニックアイデンティティ」「日本における『共住』の可能性」など。
所属ゼミ生 (先輩) から一言	私たちは「人々の目線から現代社会の課題を考える」をテーマに、春学期は様々な問題提起について多様なゼミ生の視点から意見を出し合い、全員で協力しながらゼミを進めています。各々の興味関心を元に授業を組み立てていくので、やりたいことができる場所だと思います。さまざまな個性のあるみんながお互いに尊重し、高め合うゼミになっています! 伸び伸びとした環境で、興味あること好きなことを学びたい方に来て欲しいです! (4 年生)

担当者名	渡邊 三津子 (わたなべ みつこ)
e-mail アドレス	m.watanabe@bunkyo.ac.jp
研究室	3512
出講日	月曜日、水曜日、木曜日
ゼミの開講時間	木曜 4 限、5 限
担当科目	地理学 (あだち)、環境地理学、世界と日本の地理、持続可能な開発論、地域研究
研究室を訪問できる時間帯	月曜昼休み、水曜 2 限・昼休み、木曜 4 限 ※事前にメールでご相談ください。
ゼミのテーマ	地理的地域調査法の習得と調査 (フィールドワーク) に基づく地理学的研究 ※ 3 年次に習得する地理学的なものの見方や調査手法を活用し、各自で設定したテーマに沿って調査研究を行います。テーマ選びに際しては適宜アドバイスを行います。
ゼミの内容・メッセージ	地理学という学問では、人間が地球上で繰り広げる多様な営み (文化、生業、社会、政治、経済、交通等) の成り立ち方やその変化、空間分布について、自然環境・人文社会環境を考慮に入れながら総合的に考察し、地域の特徴を浮かび上がらせていきます。「守備範囲」がとても広い学問ですが、地理学的なものの見方を学び、地域を調べるための知識・技能を習得しておくことで、幅広い分野への応用が可能です。 このゼミでは、3 年次に地理学的な調査研究を行うための知識・技能を実践的に習得します。4 年次には、各自テーマを設定して卒業研究に取り組みます。なお、3 年次の夏休みには 7 日間～10 日間程度のフィールドワーク実習 (巡検) を予定しています。 社会科教員を目指している人は、指導に役立つスキルを実践的に習得できます。また、旅行・観光業を目指している人、自治体等において持続可能な地域社会の創造や文化の継承等に取り組みたい人、地域防災や地域振興に取り組みたい人、青年海外協力隊等、国際協力に興味がある人にお勧めです。
ゼミの進め方	【3 年次】 地理的調査・研究を行うための知識や技能の習得を目指します。3 年春学期～秋学期前半では、様々な地図類、空中写真・衛星画像、古写真等の図像資料の読み解く技術を習得します。また、大学周辺の身近な地域を対象としたフィールドワークを通して、文献・資料収集の方法や、地理的な地域調査法を実践的に習得します。3 年秋学期からは、卒業論文のテーマ決定に向け、関連した論文購読・発表を行います。 【4 年次】 4 月に、卒業論文執筆にむけた具体的な研究・調査計画をたて、3 年次に習得した地理学的なものの見方や調査手法を活用して各自で調査研究を進め、卒業論文を執筆します。 【夏休み】 学外での巡検 (フィールドワーク) を行います。
留意事項 (Requirement など)	<ul style="list-style-type: none"> 学外での巡検 (フィールドワーク) を予定しており、フィールドが遠方 (海外) の場合には相応の経費が必要です。※ 巡検先については 4 月に相談して決定します。新型コロナウイルス感染症の状況や社会情勢により中止の可能性もあります。 巡検の事前準備、実施、事後レポート作成・報告会準備などで、かなりの時間が必要となります。 ゼミの活動には原則参加してください。
ゼミ履修に望ましい科目	地理学 (あだち)、環境地理学、世界と日本の地理 ※ 地理学の基礎を習得していることを前提として進めます。ゼミ履修と並行しても構いませんが、上記科目の履修を強く推奨します。
定員	10 名 ※ 学外での巡検実施を予定しているため 10 名までの募集とします。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望調査票の内容をもとに面接を行います。選考に際しては、ゼミで学びたい内容や熱意、ゼミへの貢献可能性を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入れ決定後、全員で顔合わせを行います。日時は追って連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	来年度初開講予定のため卒業論文はまだありませんが、フィールドワークに基づく地理学的研究であれば応相談。フィールドは国内外を問いません。

担当者名	A (思想史)
担当科目 (予定)	「外国史」「歴史哲学」「西洋思想と国際社会」など
ゼミのテーマ	<予定>歴史学、思想史、西洋思想から見る国際関係
ゼミの内容・メッセージ	2023年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際理解学科長の山田先生までお願いします。
定員	18名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	B (哲学)
担当科目 (予定)	「宗教人類学」「現代世界と宗教」「東洋思想と国際社会」「倫理学」など
ゼミのテーマ	<予定>哲学、倫理学、宗教学、国際社会における宗教の役割
ゼミの内容・メッセージ	2023年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際理解学科長の山田先生までお願いします。
定員	18名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	C (政治学)
担当科目 (予定)	「国際理解と法・政治」「現代世界と国家」「平和学」「国際社会の現状と課題」など
ゼミのテーマ	<予定>政治学、平和学、公共政策と現代社会
ゼミの内容・メッセージ	2023年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際理解学科長の山田先生までお願いします。
定員	18名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	D (観光社会学)
担当科目	「観光社会学」「消費者行動論」「社会学」など
ゼミのテーマ	観光社会学
ゼミの内容・メッセージ	2023年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科長の菅原先生までお願いします。
定員	18名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	E (企業経営、観光ビジネス)
担当科目	「現代資本主義と企業経営」「国際観光とビジネス」「プロジェクトマネジメント」「観光ビジネスプロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」など
ゼミのテーマ	企業経営、観光ビジネス
ゼミの内容・メッセージ	2023年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科長の菅原先生までお願いします。
定員	18名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	F (旅行業、経営、マーケティング)
担当科目	「観光マーケティング論」「旅行業論」「トラベルビジネス論」「旅行法規」「トラベル実務」「ホスピタリティ演習D (旅行業)」など
ゼミのテーマ	旅行業、経営、マーケティング
ゼミの内容・メッセージ	2023年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科長の菅原先生までお願いします。
定員	18名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。